

I. ごあいさつ

平素は、阪神電車をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。また、当社事業にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

まず、本年6月の大阪府北部地震及び7月上旬の西日本を中心とした記録的豪雨でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されました皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

なお、6月の地震発生時には、当社線におきまして直ちに全列車を停止させ、徒歩による施設点検と試運転により安全を確認し、15時に運転を再開いたしました。ご利用のお客さまには、ご不便をおかけいたしました。この地震への対応につきましては、総括した上で今後の取組みに活かしてまいります。



阪神電気鉄道株式会社
取締役社長
秦 雅夫

さて、平成29(2017)年度は、神戸市内における踏切道の除却を目的とした高架化工事や甲子園駅及び梅田駅における改良工事等を進め、運転保安の向上に努めてまいりました。特に、甲子園駅は、阪神甲子園球場の玄関口でもあり、プロ野球開催時等に変容混雑する駅であることから、ご利用いただくお客さまの安全性・利便性の向上を図るため、平成23(2011)年にホーム拡幅、エレベーター設置等のバリアフリー化工事に着手し、平成29(2017)年9月に駅施設の改良工事が完了いたしました。引き続き、神戸市内の高架化やホームドアの設置を予定している梅田駅については、お客さまや近隣の皆さま、関係機関等のご理解とご協力をいただきながら鋭意工事を進めてまいります。

一方、施設や設備面の改良だけでなく、係員に対する教育・訓練を継続して実施し、技術継承や安全意識の向上に注力いたしました。各種教育訓練を通じた部門間の連携強化による一体感の醸成と、現場に潜む危険要因や操業・作業上での気づきを収集・共有する「安全目安箱」制度の活用を中心に重点的に取り組み、鉄道輸送の安全確保をより一層推進いたしました。また、駅構内における安全性の向上につきましては、教育や啓発活動を通じて、目の不自由なお客さまへの声かけ・見守りを積極的に行うというソフト面の対策を継続するとともに、ホーム頭端部の固定柵設置やホーム縁端部に注意喚起シートを試験設置するなどのハード面の対策を講じてまいりました。

以上の取組みにより、平成29(2017)年度におきましても、安全目標である「責任事故ゼロの継続」を達成し、国土交通省近畿運輸局長から32年11か月間の責任事故皆無に対する表彰をいただくことができました。

これからも、お客さまの安全確保を最優先とし、全役員・社員が一丸となって更なる安全性の向上に全力で邁進してまいります。

平成30年7月